

第 14 号

1993年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



南溝手遺跡 航空写真

岡山県立大学建設に伴う

窪木遺跡・南溝手遺跡の発掘調査終了

窪木・南溝手両遺跡は、総社平野の南東部に位置します。この地域周辺は、県下屈指の遺跡密集地帯で、すぐ南の丘陵および周辺には、造山古墳、作山古墳等が所在し、やや北方の山塊には古代山城である鬼ノ城を望むことができます。また、備中国府推定地、栢寺廃寺も近隣にあります。なお、窪木・南溝手両遺跡は、大字

名をつけており、中道川という農業用水をはさんで隣接する位置にあります。この地域の約30haが、平成5年4月開学予定の岡山県立大学の建設用地に選定され、それに伴う埋蔵文化財の発掘調査として、平成2年3月に確認調査が、引き続いて平成2年4月より建物の建設予定地とそれに付帯する諸施設約50カ所を対象と

した全面調査が開始され、約3ヵ年にわたる歳月を要して、平成4年12月に調査を終了しました。調査面積はキャンパスの約20%の約60,000㎡で、出土した遺物は整理箱にして約2,000箱におよびます。調査の結果、当遺跡は弥生時代を中心とした縄文時代後期から中・近世に至る複合遺跡であることが明らかにされました。調査当初期待された備中国府に直接係る遺構・遺物は確認されませんでした。それにかわる貴重な新発見があいつぎ、多くの成果を納めることができました。以前にも本所報でその一部を紹介していますが、いま一度全体を振り返り、検出された遺構・遺物について大づかみに概観したいと思います。

今回の調査では、特に注目される発見が二つあります。ひとつは、縄文時代後期中頃と後期末頃の土器の胎土から稲のプラントオパールが発見されたことであり、もうひとつは、縄文時



南溝手遺跡 縄文時代後期末の靱痕

代後期末頃の深鉢の内面に一粒の靱の圧痕が認められたことです。プラントオパールとは、イネ科の植物に含まれるガラス質の細胞のことで、植物が枯れても残存します。また、その形状は植物の種類により違います。靱の痕跡は、鑑定の結果、栽培種であることが確実となりました。これらの発見は、わが国の稲作の開始を考える上で貴重な資料となるものです。縄文時代晩期には、西の微高地と中央の微高地の間にほぼ南北に蛇行しながら貫流する河道が確認されており、この河道の肩部から丹塗磨研の壺と鉢の破片及び孔列文土器片が出土しました。丹塗磨研の土器は、赤色顔料で土器の表面を着色し、へら状の工具で丁寧に磨き焼き上げたもので、一

方孔列文土器は、突帯文の付いた土器の口縁下に小さな孔の列を施す技法が用いられています。いずれの土器も朝鮮半島の技術の影響がみられ、当時の吉備地方と朝鮮半島との交流を考える資料として重要なものです。また、明らかに炉跡と考えられる遺構が20ヶ所以上確認されましたが、炉跡に伴う生活の跡は明らかにされませんでした。

弥生時代前期になると、初めてこの地に竪穴住居が登場します。弥生前期の古い段階の住居は全部で約5軒検出されていますが、この中には、朝鮮半島の松菊里型と呼ばれるタイプに似た住居もあり、このタイプの竪穴住居の中央部には、直径1m前後の穴と、その両端に対称的な小穴を一つずつ施しています。なかでも注目されるのが、玉造りの工房と考えられる住居で、1cm前後の管玉の未製品や玉を磨くのに使用した筋状の溝がついた砥石を出土しています。なお、この住居は、現在のところ最古の玉造りの関連遺構と考えられています。また、前期の古い段階の土器が比較的多く出土しており、備中南部の土器編年の良好な資料になるでしょう。弥生時代中期になると当時の生活を垣間見る資料も出土しており、火災にあった竪穴住居が数軒検出されました。このうちの1軒の住居の床面から炭化したエゴマ等の穀物が入ったままの煮炊き用の土器が検出されました。また、同時期の他の竪穴住居からは炭化米も出土しており、当時の食生活を知る上で興味深い資料となります。弥生時代後期になると遺構密度は非常に高くなり、遺物も広範囲にわたり豊富



エゴマ出土状況

に出土します。竪穴住居・井戸・掘立柱建物・溝等の遺構が確認されました。注目される遺物としては、線刻絵画土器の出土があげられます。この土器には柱間が6間の大規模な掘立柱建物が描かれており、家の全体像がわかる資料として貴重なものです。微高地の低位部には、弥生時代後期から大規模な水田利用が考えられますが、古墳時代初頭にもそれは受け継がれてい



南溝手遺跡 弥生時代後期末の井戸

ます。検出された水田跡は、古墳時代初頭に埋没したと考えられ、幅約30~50cm、高さ2~5cm程度の畦畔で、地形に制約されながらも15~40㎡の方形ないし長方形に小さく区画されています。この水田へ灌漑する溝も検出されましたが、明瞭な水口等は認められませんでした。この時期の遺物としては、銅鏃・ガラス玉・土製勾玉等が出土しています。古墳時代後期になると土地利用に大きな変化がみられます。この時期になると、低位部は、黒灰色の粘土層に厚く覆われており、何らかの理由で水田耕作は中止されたと考えられます。また、この時期かどうかははっきりしないものの、低位部周辺には、2個1対と考えられる柱穴状の遺構（柱穴状遺構列）が、直線あるいは弧を描く形で列をなして掘られています。ほぼ同位置で複数回の掘り直しがされている例も多くみられます。遺構の



窪木遺跡 柱穴状遺構列

性格は不明ですが、今後の検討が待たれます。古代の遺構については、中世以降の削平により微高地上の遺構のほとんどが消滅したと考えられますが、山陰川沿いでは、奈良時代および平安時代の掘立柱建物が数棟良好に検出されま

した。出土した遺物としては、少量の灰釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁や陶硯・陶馬などがあげられます。また、低位部では、中世以降の削平を免れた平安時代の水田層が確認されており、その畦畔からは、胴部に「馬養」と文字が線刻さ



窪木遺跡 平安時代の建物

れた須恵器の壺が馬歯とともに出土しました。中世以降になると広範囲に耕地化が進み、現在とあまり変わらない様相を呈していたものと思われます。一部では、建物・土壌墓が確認されました。建物のなかには溝で区画された5×2間と規模の大きいものもあり、屋敷地と想定されています。

以上のように、窪木・南溝手両遺跡からは、数多くの重要な遺構・遺物が発見されました。特に、縄文時代後期から弥生時代前期にかけての遺構・遺物には、従来の定説を覆す可能性をもつ新資料も多く、研究史上でも非常に重要な資料になり得るものです。また、その他の時代の遺構・遺物についても、広大な面積を全面的に調査し得たことにより、集落のあり方を面的な広がりの中で把握することができました。今後、これほどの調査対象地をもつことが少ないと予想されるだけに、いくつもの重要な成果をもたらしたと言えるでしょう。なお、今回の調査により得られた膨大な遺物や図面などの記録についての整理・分析・検討などの作業は、着手されたばかりの状態であり、各遺構における詳細な時期や性格などは、いまだ不明な部分も多く残されています。今後の分析・検討を積み重ねることにより、窪木・南溝手両遺跡の歴史的位置は明確なものになっていくものと考えられます。（平井泰男・川崎新太郎・久保恵里子）

センターの年間事業（平成四年度）

調査第一課

1992（平成4）年度における調査第一課の事業は、事前協議にもとづく発掘調査6遺跡と、多数の緊急対応のほか、3遺跡に関する報告書作成、ならびに啓発普及活動の4分野にわたっておこなわれた。順次、記そう。

最大規模となった仮称県立大学の建設に伴う事前調査については、本誌、巻頭で触れているので割愛する。昨年から本格調査に入った都市計画道路万成・国富線に伴い実施した岡山県津島遺跡では、調査区西端部の微高地上で須恵器が出現する直前ごろの堅穴住居址5軒と、その下層で弥生時代の水田址を検出した。微高地の東部においては平安時代後期の大溝と、これと一体化した給・排水路を検出し、水利にからむ複雑な水配りの実態を考究しうる、好資料を得た。さらに東にわたる調査区でも弥生前期から後期におよぶ水田址をいく層も発見・完掘している。

北東に位置する岡山市高松の立田排水機場から山陽自動車道の側道敷に埋設される排水溝の建設に先立って、狭長な調査区を設け、発掘を実施した。遺跡名は政所と津寺で、総面積は合計2000㎡弱である。政所遺跡では微高地3箇所を確認して弥生時代の中・後期の堅穴住居址、掘立柱建物3、大溝2条のほか、古墳時代後期の堅穴住居址3を検出。津寺遺跡においては微高地2箇所の上から古墳時代後期の堅穴住居址12と、奈良～平安時代の掘立柱建物などに混じって当初胞衣容器を想わせた地鎮祭遺構が見つかった。

一般国道大内田高松線改良事業に伴う発掘調査は、山陽自動車道岡山ジャンクションの東およそ300mで南北に細長い調査区を設定しておこなわれ、本年度は約1900㎡強が対象地となった。遺跡は足守川中流域の東に形成された津寺遺跡の東端にあたる。縄文時代の遺物としては後・晩期の土器片少量が見られるものの遺構は見つかっていない。弥生時代の遺構は袋状土壇3、堅穴住居址1のほか、土器片多数を含んだ



津島遺跡 弥生時代前期の水田跡

後期前半の溝が検出されている。また古墳時代に属する堅穴住居址9のうちの1軒からは銅鍬および鉄鍬が出土し、注目されている。なお、鎌倉末期ごろと考えられる土壇から牛や馬の頭蓋骨3頭分も検出され、当時の雨乞いの祭式を示す実態が判明した。

備前国府推定地に建設が予定された、警察官舎の事前調査では、1370㎡を発掘し中井・南三反田遺跡と命名することとした。ここでは、ほとんど墳丘が削平され、周掘のみがろうじて残された円墳2基および方墳6基が検出された沖積地における古墳残痕の発見は県下では始めてでこのような資料の存在することに気づき、おおいに注目を集めた。径または一辺が8m以上15m未満程度の規模であり、共伴する須恵器から5世紀の後半ごろのものと考えている。

圃場整備事業に先行して遺跡の広がり把握を目的で試掘溝を入れた、総社市赤浜散布地ほかでも一定の成果を取めた。2×5mの試掘溝を計40本を設定。調査対象地の中で、便宜上、西区と東区に分けて記すと、西区では弥生後期掘立柱建物と古墳時代後期の堅穴住居址が見つかり、東区でも弥生時代後期から古墳時代初頭の掘立柱建物や堅穴住居址が検出され、これらから推して微高地の広さは東西約400m、南北200mを超える拠点的な集落の一つが存在することが明らかになった。

本年度も例年どおり、少年考古教室・スライド会・文化財担当職員研修会などを開催したことを、最後に付記しておこう。（葛原克人）

調査第三課

本年度調査第三課は、山陽自動車道・中国横断道建設に伴う発掘調査を実施した。

山陽自動車道関係は昨年に引き続き山陽町内のヤブレ塚古墳、馬屋遺跡、斎宮遺跡、また新たに瀬戸町塩納勘定口2号古墳、岡山市富原大岩遺跡、岡山市横井上白壁奥遺跡、中国横断道関係では賀陽町上竹、大村中・近世墓の調査を行った。

ヤブレ塚古墳は確認調査の結果、古墳でないことが判明した。馬屋遺跡の土盛部では中世掘立柱建物16棟、土壌墓6基、井戸、溝などが検出され、15ヶ所の橋脚部および側道部の調査を行った。側道部では、備前国分僧寺と尼寺を結ぶ線上から道路の西側溝と思われる石組み、石敷きを検出した。出土遺物は奈良時代の瓦、中世の土器が出土している。

斎宮遺跡からは縄文晩期の土器片、弥生時代中期末～後期にかけての堅穴住居20軒、土壙、土器棺などが、古墳時代の遺構は、堅穴住居60軒、掘立柱建物70棟検出された。注目すべき出土遺物として5世紀前半の住居からは珠文鏡、朝鮮半島系の軟質土器が出土し、後半の住居からは新羅系陶質土器の杯蓋、馬具の辻金具、6世紀末頃の土壙からは、ネズミ返し状の板材が出土している。奈良時代の遺構は掘立柱建物10棟、溝などで、建物は真北方向に建てられている。溝はこれら建物群を囲むかのように東西方向に二条、藪状に連なっている。主な出土遺物は木の葉状の暗文を施した丹塗り土師器、蛇紋岩製の鈿帯（丸柄）、緑釉陶器片、瓦片などがある。中近世には、10数棟の掘立柱建物、土壙



斎宮遺跡 亀田3・5区の遺構検出状況



斎宮遺跡 古墳時代後期の木製品出土状況

墓、溝、井戸などが検出されている。

勘定口2号墳は、かつての圃場整備事業で町によって調査が行われた。大型の横穴式石室内に木棺、陶棺、多量の須恵器等が出土している。今回は墳丘と石室の実測を行った。石室は全長11.6m、幅1.6～2.1mの胴張りのするものである。

大岩遺跡は、岡山市富原所在の池田家大岩墓所の移転立合の時、弥生土器、埴輪が発見され、急拠調査を実施した。主な遺構には弥生時代中期後葉から後期の堅穴住居11軒、後期の袋状土壙12基、落とし穴3基、土壙墓5基、1×2間の建物1棟などがある。そのほかに削平された古墳の墳丘部が認められ、周溝内から円筒・形象埴輪片、須恵器、土師器が出土した。

白壁奥遺跡は、岡山市横井上に所在する。主要遺構は、製鉄炉14基、炭窯と考えられるもの2基である。このほかに緑地帯として残された地点に炭窯2基、古墳時代後半の横版と奈良時代の火葬壺を検出している。製鉄炉と炭窯の時期は、伴う遺物がなく、判断しがたいが、周辺から若干の須恵器が出土している。

中国横断自動車道は昨年米子～落合間が開通し、今年度から北房J C～総社市インター間の調査を行うことになった。山陽自動車道（斎宮遺跡）終了後6名の調査員で、用地買収等が終了していた賀陽町上竹、大村中世墓群の調査に入った。現在までに90数基の近世墓の調査を行った。その東側には大理石の五輪塔を含む数十基の中世墓がみられる。近世墓の副葬品には、寛永通宝、中国銭、煙管、鋏、毛抜き、櫛、碁石、数珠玉、小刀、火打ち鎌、小柄、漆塗り碗、陶磁器などがある。（伊藤 晃）

報告書の刊行について

近年の発掘調査の激増に伴い、報告書の作成が年々累積してきました。当センターでは膨大な遺構・遺物の整理に追われながら百間川・山陽自動車道・足守川関係等の報告書を作成中です。以下本年度刊行の報告書をお知らせします。

- ①岡山県埋蔵文化財発掘調査報告81『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』5 菅生小学校裏山遺跡、二子14号墳他 (764頁) ¥4,000
- ②岡山県埋蔵文化財発掘調査報告82『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』6 矢部奥田遺跡、矢部堀越遺跡他 (670頁) ¥4,000
- ③岡山県埋蔵文化財発掘調査報告83『山陽自動車道建設に伴う発掘調査』7 平瀬古墳・白壁古墳他 (206頁) ¥1,500
- ④岡山県埋蔵文化財発掘調査報告84『百間川沢田遺跡』3 ドングリ貯蔵穴、弥生前期の環濠集落と墓、弥生後期の水田・水路 (674頁) ¥4,500
- ⑤岡山県埋蔵文化財発掘調査報告85『赤浜散布地ほか』(頒布なし)

⑥岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86『窪木業師遺跡』

弥生～中世の集落遺跡、鉄鋌2枚と各種鍛冶関連遺構・遺物が出土 (462頁) ¥(未定)

⑦岡山県埋蔵文化財発掘調査報告87『みそのお遺跡』

弥生後期～古墳終末期の墳墓群(50基)・製鉄炉・製炭窯他 (478頁) ¥(未定)

入手ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。
岡山県文化財保護協会(岡山県教育庁文化課内)

☎086-224-2111(内線)4415

なお当センターでもお頒けしております。

訂正とお詫び

前号で誤植がありましたので訂正します。

- ① 8頁(誤) 係長 井上弘
→ (正) 課長補佐(係長) 井上 弘
- ② 8頁(誤) 調査第一課第二係 亀山行雄
→ (正) 調査第一課第一係 亀山行雄

普及啓発事業

平成4年度埋蔵文化財担当者研修会

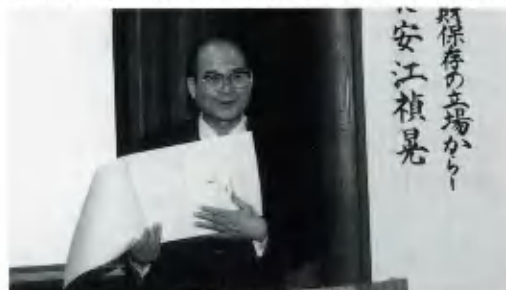
当研修会は、県下の行政機関において文化財保護行政を担当する事務職員を対象に、埋蔵文化財行政への一層の理解と埋蔵文化財保護の伸展を図る目的で、隔年で実施しています。今年度は2月17日、53名の参加を得て当センターで実施しました。

講師には、鳥取県淀江町教育長安江禎晃氏と、岡山県教育庁文化課課長補佐柳瀬昭彦氏を迎え、講演をいただきました。

安江氏は、「甦る上淀庵寺—文化財保存の立場から—」と題して、淀江町の歴史と文化財の

保存と活用を計るために歴史公園(伯耆古代の丘)の整備事業を進めている状況と、壁画や塔を南北に二塔配するなど独特な伽藍配置を持つ上淀庵寺の発掘調査概要をスライドを活用して説明されました。また、マスコミの取材に関する問題点も取り上げられていました。

柳瀬氏は、「文化財保護の現状と課題」と題して、開発による埋蔵文化財の破壊が県内でも発生している事例を取り上げて、埋蔵文化財行政の課題を示され、また、埋蔵文化財事務手続きについて説明されました。



岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表 (平成4年度)

遺 跡 名	所 在 地	調査の原因	遺 跡 の 内 容	調査期間	面積 (㎡)
1 赤浜散布地ほか	総社市下林・上林	県営園場整備	弥生～中世の集落跡	4.13～5.22	400
2 窪木遺跡・南溝手遺跡	総社市窪木・南溝手	県立大学建設	縄文～近世の集落・水田跡	4.1～3.31	15,617
3 津島遺跡	岡山市学南町	都市計画道路建設	弥生～中世の集落・水田跡	4.1～3.31	2,927
4 政所遺跡	岡山市高松原古才他	排水機場送水管埋設	弥生～中世の集落・水田跡	4.1～3.31	658
5 津寺遺跡	岡山市津寺	〃	弥生～近世の集落・水田・官衙跡		1,206
6 津寺三本木遺跡	〃	県道改良	弥生～近世の集落跡	4.1～12.11	1,228
7 津寺一軒屋遺跡	〃	〃	〃	1.5～3.31	400
8 備前国府推定地 (中井・南三反田遺跡)	岡山市中井	警察官舎建設	弥生の集落跡・古墳群・水田跡	5.12～5.22	56
				7.16～12.18	1,370
9 米田遺跡	岡山市米田	排水機場建設	中世の集落・水田跡	9.28～9.30	120
10 窪木名高地遺跡	総社市窪木	山陰川河川改修	弥生～近世の水田跡	11.4～12.3	116
11 史跡名勝後楽園	岡山市後楽園	電線埋設	後楽園外堀	10.26～10.29	55
12 天瀬遺跡	岡山市天瀬	国道共同溝建設	弥生～古墳の集落跡	11.11～11.17	272
13 朱千駄古墳	赤磐郡山陽町徳崎	県道改良	古墳	11.25～11.26	35
14 熊山田散布地	邑久郡邑久町山田荘	保健所建設	弥生の集落跡	12.22～12.23	210
15 大溝遺跡	都窪郡山手村大溝	国道改良	遺構なし	1.25～3.31	573
16 今溝遺跡	総社市三須	〃	弥生～古代の水路	1.25～3.31	
17 酪農試験場地内遺跡	津山市大田	リポートセンター建設	弥生～古墳の集落跡	3.1～3.16	710
18 勝央中学校建設用地内古墳群	勝田郡勝央町種月・平	中学校建設	古墳群	8.24～8.28	100
19 百間川兼茶遺跡	岡山市兼基	百間川河川改修	弥生～中世の集落・生産遺跡	10.1～3.31	2,400
20 政所遺跡	岡山市加茂他	山陽自動車道建設	弥生～古墳の集落・水田跡	4.1～5.18	655
21 津寺遺跡	岡山市津寺	〃	〃	4.9～4.30	45
22 白壁奥遺跡	岡山市横井上	〃	古代の製鉄関係遺跡	9.16～9.21	137
				11.2～3.31	3,500
23 大岩遺跡	岡山市富原	〃	弥生～中世の集落跡・墓・古墳	10.6～10.7	95
				10.19～12.15	1,583
24 馬屋遺跡	赤磐郡山陽町馬屋	〃	古墳～中世の集落跡	4.1～12.8	8,945
25 斎宮遺跡	〃 斎宮	〃	縄文～中世の集落跡	4.1～10.31	19,170
26 ヤブレ塚古墳	〃 馬屋	〃	遺構なし	4.6～4.16	100
27 勘定口2号墳	〃 瀬戸町塩納	〃	古墳	4.18～5.16	400
28 大村中世墓群	上房郡賀陽町上竹	中国横断道建設	中世～近世墓	11.1～3.31	2,168
29 高下遺跡	岡山市竹原	国道バイパス建設	弥生～中世の集落跡	4.1～10.31	2,000
30 田益遺跡	岡山市田益	〃	弥生～中世の集落跡・墓	5.25～3.31	5,000
31 西山古墳群	岡山市栢谷	〃	古墳群	11.1～3.31	2,000
32 茂平城跡	勝田郡勝央町種月	新勝央工業団地建設	山城跡	4.1～2.15	156
					3,650
33 茂平1号墳	〃	〃	古墳	9.4～10.29	200
34 溝澄中世墓地	〃	〃	中世～近世墓	11.16～1.12	1,000
35 茂平1号墓	〃	〃	近世墓	2.1～3.31	500

(番号ゴシックは確認調査)



編 集 ・ 発 行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電 話 (086) 293-3211

●交通案内

- ・ J R 山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・ J R 吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・ J R 岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分